

EnglishCentral が東京学芸大学と 2020 年度に向けて 小学校教員養成のための英語教育教材の共同開発を開始

- 2018 年度からの教員養成現場での実用化を目指す -

オンライン英語学習サイト『EnglishCentral』を提供する株式会社 EnglishCentral(本社：東京都台東区、代表取締役：松村 弘典、以下、イングリッシュセントラル)は、2020 年度から実施される小学校での英語教育の教科化に向けて、国立大学法人東京学芸大学（東京都小金井市、学長：出口 利定、以下、東京学芸大学）と小学校教員養成のための英語教育教材の共同開発を開始しました。

2020 年に導入される新学習指導要領では、小学校教育における英語強化が大きな柱となっております。具体的には、小学校 5・6 年生で英語が教科化され、年間 70 時間の授業確保が義務付けられます。合わせてこれまで 5 年生以上で行われていた「外国語活動」が 3 年生から開始されるため、小学校全体での英語の授業時間が大幅に増加する見込みです。一方、小学校の教育現場では英語の専門資格を持つ教員も少なく、特に公立小学校ではこれからどのように新しい英語授業に対応していくのが大きな課題となっております。このような状況に対してイングリッシュセントラルと東京学芸大学は、小学校教員を目指す大学生やこれまで英語の教科指導を専門的に学ぶ機会が少なかった小学校教員が英語の授業を実施できるよう、授業内で使用する英語表現や授業の進め方を学べる動画学習教材を、共同で開発することいたしました。

イングリッシュセントラルは、パソコン、タブレット、スマートフォンでアクセスすることができる e-learning 教材で、1 万 4000 本を超える動画教材をベースにリスニングとスピーキングを含めた英語 4 技能を向上させることができるツールです。教師向け管理ツールや子供向けの学習教材も充実しており、すでに小学校から大学までの幅広い層の学校で採用されている実績を持っております。これらイングリッシュセントラルの強みと教員養成をミッションとする東京学芸大学の専門性を組み合わせることにより、実際の教育現場ですぐに活用可能な教材

を開発してまいります。また、今回開発される教材動画は、小学校教員育成分野に知見のある東京学芸大学教員が次期学習要領に基づいて作成しており、授業内で使えるフレーズや授業の進め方、効果的な音声インプットの仕方や、児童の発話を引き出す方法等を具体的に学べるものとなる予定です。

今回の共同開発された教材については、2017 年度中は東京学芸大学内の研究授業でテスト運用され、2018 年度には日本全国の大学の教育課程および小学校での一般販売を目指します。

■ イングリッシュセントラルについて

『EnglishCentral』は、英語学習の基本である「聞く」「読む」「話す」が効果的に学習できるよう、教育学、脳科学、音声科学など最先端の研究をもとに Google 社の投資子会社である Google Ventures 社の投資を受けて、アメリカで開発されたサービスです。1 万本を超える動画コンテンツとオンライン英会話を組み合わせた数少ない総合英語学習サービスで、グーグルのグループ会社として培った技術と音声認識テクノロジーによる発音診断により日本人が苦手意識を持つ発音練習を効果的に行うことができます。また、これらの自己学習の成果を、「GoLive!」というオンライン英会話レッスンを通じて、さらに磨くことも可能です。日本国内では、現在 200 以上の大学で利用されており、ユーザー数は世界中で 300 万人以上。2017 年から高校検定教科書デジタル教材としても日本全国で利用が開始されます。

パソコン版

<http://ja.englishcentral.com>

iPhone 版

<https://itunes.apple.com/jp/app/english-central/id927987414>

Android 版

<https://play.google.com/store/apps/details?id=com.englishcentral.android.app&hl=ja>

本リリースに関するお問い合わせ

株式会社 EnglishCentral

広報担当 山縣

東京都台東区花川戸 1-2-10 ハヤカワビル 4F

TEL: 050-3802-3236

Email: info@englishcentral.com